

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	地域密着型認知症対応型共同生活介護G・H はるかぜ
所在地	鹿児島市 西陵6丁目 21番 21号 283-0991
自己評価作成日	平成28年 7月 1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市新屋敷16-A-3F 302号
訪問調査日	平成28年7月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず、入居者の個人の意志を尊重し、その人らしく、楽しく生活をして頂く様に支援をしています。お天気のいい日は散歩をしたり、ホームの行事で花見、外食体験、みかん刈り等を計画・実施しています。地域の総会・行事にもスタッフと共に参加しています。2ヶ月に1回実施している運営推進会議には、老人会・福祉委員・民生委員、児童委員が毎回交替で参加して戴いていて、会が終了した後レクリエーションで、日本舞踊などを披露していただいたりして地域との交流に努めています!西陵地域には17名の民生委員さんが在籍しておられ、火災・震災・もしもの時には応援をお願いします。認知症の高齢者が地域の中で地域の人とたくさん、触れあいながら、安心して生活出来る様に支援をしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームの理念は、毎朝職員全員で唱和し運営推進会議で触れメンバー全員で共有している。理念は職員に浸透しており、口腔衛生を保持し美味しく食事を摂ることを目指すということにも力を入れており、法人の管理栄養士による栄養指導を受け自己評価している。地域から食材の差し入れがあったり、毎日職員と一緒に買い物に出かける利用者や食事の下ごしらえを手伝う方がいる。また、ソーメン流しに出かけたり、土用の丑の日はウナギの出前を取ったり、クリスマスは家族とバイキング料理を楽しむなど食の自立支援に取り組んでいる。
- ・主治医は、利用者、家族が希望する医療機関となっており、外来受診はドライブも兼ねてよい気分転換になっている。薬剤師(居宅療養管理指導者)との連携もあり、精神的に不安定な利用者へのサポート体制もある。重度化した場合などは、医師、看護師、家族、関係機関と十分に話し合い、ホームででき得る最大限のケアにて対応している。看取りについては、今後検討していく予定である。
- ・運営推進会議は定例化されており、ユニットに交互に集まり利用者全員が参加している。会議後は、踊りなどを観賞し茶話会にて親睦を深めたり、ミニ研修を企画し参加メンバーで学習するなど知識の研鑽の場を提供している。今後は認知症カフェについても取り組む予定である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスをふまえた事業所理念を作っており、毎朝の申し送り終了後に、実践に繋がるように全スタッフで唱和している。	職員は、毎朝朝礼で理念を唱和し運営推進会議で確認するなど日々のケアが理念に沿っているか管理者、職員全員で評価している。理念は職員に浸透しており新人教育にも活用されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム入り口には門扉をつけず玄関も施錠もしないで誰でもいつでも来所出来る様にしている。また地域の夏祭り、小・中学校の文化祭も見学し、触れあう機会を作っている。	毎朝、道路など地域の清掃活動、利用者と近隣や公園へ散歩したり、スーパーに買い物に行くなどして地域と交流している。町内会に加入し、総会には利用者全員と職員が参加している。また、食材等の差し入れがある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	西陵南町内会に加入し、総会等にもスタッフと一緒に参加している！月2回の運営推進会議には民生医委員・交番の警察官も参加して戴き認知症の理解や、非常事態の時の協力もお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の一年間の行事や・写真も発表し、ここでのサービスも理解してもらっている。反対に地域の活動や、参加された委員さんが自宅で取れた野菜を持ってきてくださっている。	会議は、両ユニットの利用者、職員が一同に参加し、民生委員は、23名が交代で参加している。また、会議後踊りなどを観賞しながら茶話会を実施し親睦を図っている。会議への参加は、利用者の脳活性化の効果もある。管理者は、家族が会議に積極的に参加できるよう検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者の入居相談がよくある。その中で市の保護課の職員と細かく協議し入居に至っている。プランも作成したら市へ郵送ではなく直接届ける様にしている。市の介護相談員もきている	管理者は、市担当者や福祉事務所職員と直接面談したり、電話などを通じて事業所の実情や介護計画の説明をおこなったり、協力を求め信頼関係を築くなどして連携している。年1回、市の介護相談員を受入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしないという基本姿勢で臨んでいる。玄関も窓も常時開錠し、毎月1回身体拘束廃止委員会を開催して、その中で三つの条件に当てはまり且つ、家族の同意が得られた時に限り時間を最小限にし、やむを得ず行う場合もあるという事の話し合いもしている	職員は、玄関のチャイムに頼ることなく自由な暮らしを支援している。必要時は、身体拘束の弊害を十分に理解した上で、利用者の行動を、『タイムスケジュール表』にて管理し、拘束しないケアに努めている。実際に肌を露出される方の事例があったが行動パターンを探求し改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について内部研修で学ぶ機会を設けて、虐待が決して見過ごされる事がないように、全スタッフで注意を払っている!また外部の研修にも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職場内研修で権利擁護に関する制度と理解を学ぶ機会を設けている実際に前年5月迄日常生活支援事業を受けておられる入居者がおられた。これからもそういう対象者がおられたら、活用の機会も作れる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時はスタッフ2名で対応し、契約の締結・解約時の説明を本人・家族へ行う！本人や、ご家族の不安・心配に関しては時間をかけて納得いかれるまで説明し理解をして頂く様にしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に出席したご家族からでた意見も記録し、入居者の居室に「ご家族とホームとの交換ノート」を準備している。面会時にご家族と日常的にフランクに意見などを聞くようにしてスタッフ同士でも共有し、ケアに反映させている。	利用者の言葉や行動から本人の希望を把握し、家族とは、『はるかぜとご家族の気持ちノート』を居室に掲示し意見交換するなどしている。また、運営推進会議で出された意見、要望はミーティングなどで話し合いサービスに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送り、事業所のミーティングを活用し職員の意見や提案を聞き、検討・改善を行っている。	職員は、朝礼時の申し送りやミーティングで意見、提案するなどの意見交換やサービス内容を見直し変更をしたりしている。管理者は随時個人面談などして職員の意見などを聞き取り職員に対して心配り、気配り、目配りに余念がなく互いの信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は常に管理者・職員個々の努力・実績・勤務状況を評価し、向上心を持って働けるように職場の環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>指導新人教育マニュアルを作成し外部・内部研修への参加も積極的に声かけし、勤務変更などをして参加できるように支援している。研修に参加した職員はミーティングで発表する機会を設けて研修内容を共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>敬老会の出し物を同系列の事業所に出向き発表している!スタッフとの情報交換、交流を通してお互い向上していく機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時からご家族や、本人の不安や困りごと要望などについてよく聞き納得されるまで耳を傾けて安心して頂く様な関係づくりを常にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず入居相談・入居申し込みがあった時点で見学に来て頂いたり、本人と面接をして不安などが無いように関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人双方の意見も聞いた上で他のサービスの検討、サービスの紹介や、利用も含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩という考えで臨み、生活の中で色々教えて頂きたいという姿勢で暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここでのサービスを提供するときには、本人・家族・職員が3本柱と言う気持ちを常に持ち、家族の心・入居者の心にも、寄り添って共に本人を支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近隣の人や、教え子、知り合いの方の面会時にも自室でお茶・お菓子をだしてゆっくり話す時間を提供している。いつでもご面会においでになるように声かけしている。	かつての着付けのお弟子さんが面会に来られるなど、入居前からのお付き合いの方との交流が継続できるよう配慮している。希望される方は、訪問マッサージ、爪のケアなどを楽しまれ、ヘアカットは全員が利用され馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の弾む入居者同士も大切に、相性のよくない入居者同士の関係性もこれ以上悪化しないように席替えなども随時行ってよりよく楽しく生活が出来る様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話をして近況を聞いたり、行き先の病院や施設を訪問して家族からの相談にのっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者へ声かけを行い本人の思いをさりげなく聞き、聞き逃す事がないようにしている。	本人の思いを共有できるようコミュニケーション活動にも力を入れているが、意志表出は少ない。言葉にできない本人の思いをしぐさや行動を把握し見逃すことがないようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし、職歴・生活歴・子供の数などもご家族から聞き居室にもなじみの家具などを置き安心して生活出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	睡眠や排泄、食事量、興味があるものも全て観察し、申し送り・連絡帳で把握する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは本人・ご家族の意見を聞き全スタッフとカンファレンスした上で作成、ご家族に読んで頂き了解をもらっている、必要に応じ内容の変更、新しい課題が発生したらプランの見直しをしている。	アセスメントは、職員全員で取り組んでいる。ホームは、生活リハビリを中心にしたケアを目指しており利用者本位に本人の主体性に任せた生活をしていただくことに配慮している。計画の見直しも柔軟におこない、モニタリングは毎月実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の観察(食事・排泄・心身状態・認知症の行動障害)について援助の内容を個々に記録し、ケア・ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1日の日課は一応決めてはいるがその時々状況に合わせて外出・レクリエーションを実施して柔軟なサービスをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して地域で暮らし続けられるように地域の行事等も入居者に伝えている。運営推進会議の時も町内会の会長さんから直接行事・活動を発表してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望されている主治医がいて、毎日バイタルチェックし、週1回、主治医に上申、月1回は必ず受診している。緊急時はドクターへ直接繋がる携帯(ホットライン)が設置されている。	本人や家族が希望する主治医となっており、月1回外来受診している。他科受診は、家族に同行したり文書にて情報提供し医療機関などと連携を図っている。主治医とは24時間ホットラインで医療連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に看護師資格保有者がいて急変時には早めの気づきがあり受診して適切な医療を早期に受けられるような体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合には、サイン入り色紙・お花を持って管理者・職員がお見舞いに行き、今後の事や、経過についても病院のS・wと連携をとり、安心して治療ができる様な関係作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化したりしたときや終末期に向けての話は、それが必要になりそうになる時点でご家族に伝える様にしている。ターミナルケアについては今後事業所としてどの様にしていくか準備中です。	契約時、重度化した場合についてホームでできる医療について説明し同意をいただいている。本人や家族が希望した場合など看取りについても柔軟に取り組む予定であるが、具体的には今後検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には事業所独自のマニュアルが作ってあり、ホットラインも設置してある。月1回の職場内研修で「緊急時の対応」の研修も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日・夜を想定した災害・火災の避難訓練を年3回実施している。近隣にある、同系列の事業所にも非常時には協力依頼もしている。災害時の「緊急持ちだし袋」も常時準備している。	昼夜想定避難訓練、地震時の対応など年3回実施している。地域には、運営推進会議で協力を求めている。隣接したスーパーの店長や法人の協力体制が構築されている。緊急持ち出し袋、頭巾、備蓄を完備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者・職員は日々のケアの中で入居者へ尊重した言葉かけを行っている!本人のプライバシーを保護しプライドを傷つける事がないようにしている。	玄関に利用者別の面会簿を設置、記録物などについても個人情報に配慮され適切に管理されている。利用者に対する言葉使いも丁寧で声の高さなどにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒にお茶・食時をする事で入居者の気持ちに寄り添い、入居者が話し易い、雰囲気を作り、思いを聞きとる様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調も見ながら・その人のペースや気分を見ながら希望を聞くようにしている。自由に生活をして頂く様な姿勢が基本という考え方でいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人できること・好きなことを最優先に身だしなみの声かけを行っている。地域の美容室の先生が訪問し、本人の好みを聞き、会話をしながらカットをして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえなどを入居者の能力に応じて関わってもらっている。スタッフも入居者とおなじテーブルで会話をしながら和やかな雰囲気ですべてをしている。	献立は1週間ごとに交代で作成し食器洗いやお盆拭き、皮むき、盛り付け、エプロンたたみ、テーブル拭きなど手伝いをされる方がある。手作りおやつ、外食や出前を楽しんだり、行事食を家族と一緒に摂るなど食の楽しみに配慮している。佃煮などの常備菜も活用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立には野菜を多く取り入れバランスのよい栄養摂取に心がけ、献立・食事量・水分量も個々に記録し、水分が少ない人にはポカリなどを提供するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアも一日4回個々に介助・声掛けしているが自立支援を優先している。できる人は見守りで自室の洗面台へ案内し義歯洗浄・ポリデント消毒して口腔内清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンをスタッフは把握し早めのトイレ案内をして、失禁を減らす様にしている。排便も基本的にトイレでできる様に支援している。	排泄機能に障害があり常時ポータブルトイレを使用される方やトイレを併用し排泄の自立を図っている利用者もいる。布の下着にパットを併用される方が大半で、トイレの扉を撤去しカーテンに替え、カーテンに鈴を着け安全に移動し自立した排泄や移動動作ができるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品・果物を献立に取り入れ、便秘を予防している。個々に排便チェック表に記録し、排便ないときはかかりつけ医と連携をし指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日曜日以外は毎日入浴日としている。当事業所は温泉が湧き出ているので一応当日の入浴者は決めてはいるが、いつでも希望すれば入浴できるようにしている。	概ね隔日に入浴ができるよう支援しているが、必要に応じて柔軟に入浴を促している。手すりが設置された広い浴槽で個別に温泉浴を満喫している。行事で外出した日の翌日は、全員が入浴をして保清ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠を把握し、日中仮眠をとられる入居者もおられるが、夜間の安眠を確保する為に日中の生活レク・軽体操を含めレクリエーション活動を毎日行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を利用している。職員は薬の内容・副作用・用法・用量を把握して、飲み忘れやのみ間違いがないように与薬時は口の中に入れて完全に飲み込んだかの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人一人ができる役割や、楽しみは把握して、一緒に行く。できたときは職員は評価してお礼を必ず伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車で他の入居者と乗り合わせての定期受診、お天気を見ながら本人の希望を聞いて近くの公園などへ散歩などを行っている。	本人の希望により毎日近隣や公園まで散歩したり、外来受診を目的にドライブ、隣接のスーパーに買い物に行かれるなど外出を楽しんでいる。また、月1回娘さんと外出し外食を楽しまれる方もおられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の事を自分で管理できる入居者はいないが、たまにお金を思い出して職員に聞いて来る入居者おられる。金庫の所へ案内して「ここにありますよ」と伝えている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からかかってきた電話はすぐ繋ぎ「かけたい」という希望があればかけてあげる。年始にはご家族へ手造りの年賀状を作りだしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホールのは3～4人掛けのソファをおき、壁には季節に合わせて折り紙などのレイアウトを入居者と作って貼っている。家庭的な空間で居心地よく過ごす事ができる様にしている。</p>	<p>玄関には生花が活けてありでおしゃべりができるスペースがある。共有スペースには長めのソファが複数設置され、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮されている。対面キッチンでは職員が利用者の表情や様子を垣間見ながら食事などを準備し、その匂いや音などが利用者の五感を刺激している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気のあった者同士で過ごせる広さのホールがあり、入居者同士でかけられる2～4人掛けのソファ・椅子がおいてあり、思い思いに過ごしておられる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が在宅で生活していたときの家具も置いてあり、季節に合った夜具も本人とご家族が相談した上でもってこられて居心地よく過ごされている。</p>	<p>利用者は使い慣れた物を持ち込み居心地よく過ごしておられる。また脳疾患の後遺症があり移動の安全に配慮しベットや家具、ポータブルトイレなどをコンパクトに配置している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・ホールからお一人お一人の様子がうかがえる環境であり、「できる事」は見守りし、「できない事は介助」する自立支援をスタッフは心かけている、できるだけ自立した生活が送れる様にしている。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない